

3. 周辺地域の現況

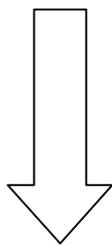
3-1 周辺地域の社会的状況

(1) 土地利用の状況

土地利用の現況

大河津分水路周辺土地利用をみると、水田が多くを占め、豊かな田園地帯が広がっています。また、大河津分水路内の高水敷は、主に水田として利用されています。

空中写真による土地利用の変遷

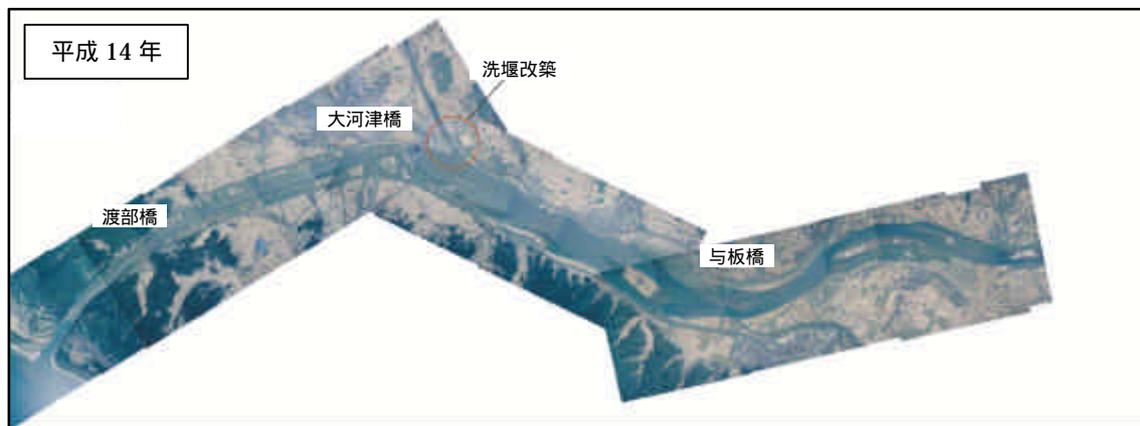


・河川の周辺を見ると、分水町周辺で市街地が広がったほかは、大きな変化はありません。下流側は樹林が広がる丘陵地、上流側は豊かな田園地帯が広がっています。

・河道内は、かつて大小さまざまな形の中州が点在していました。

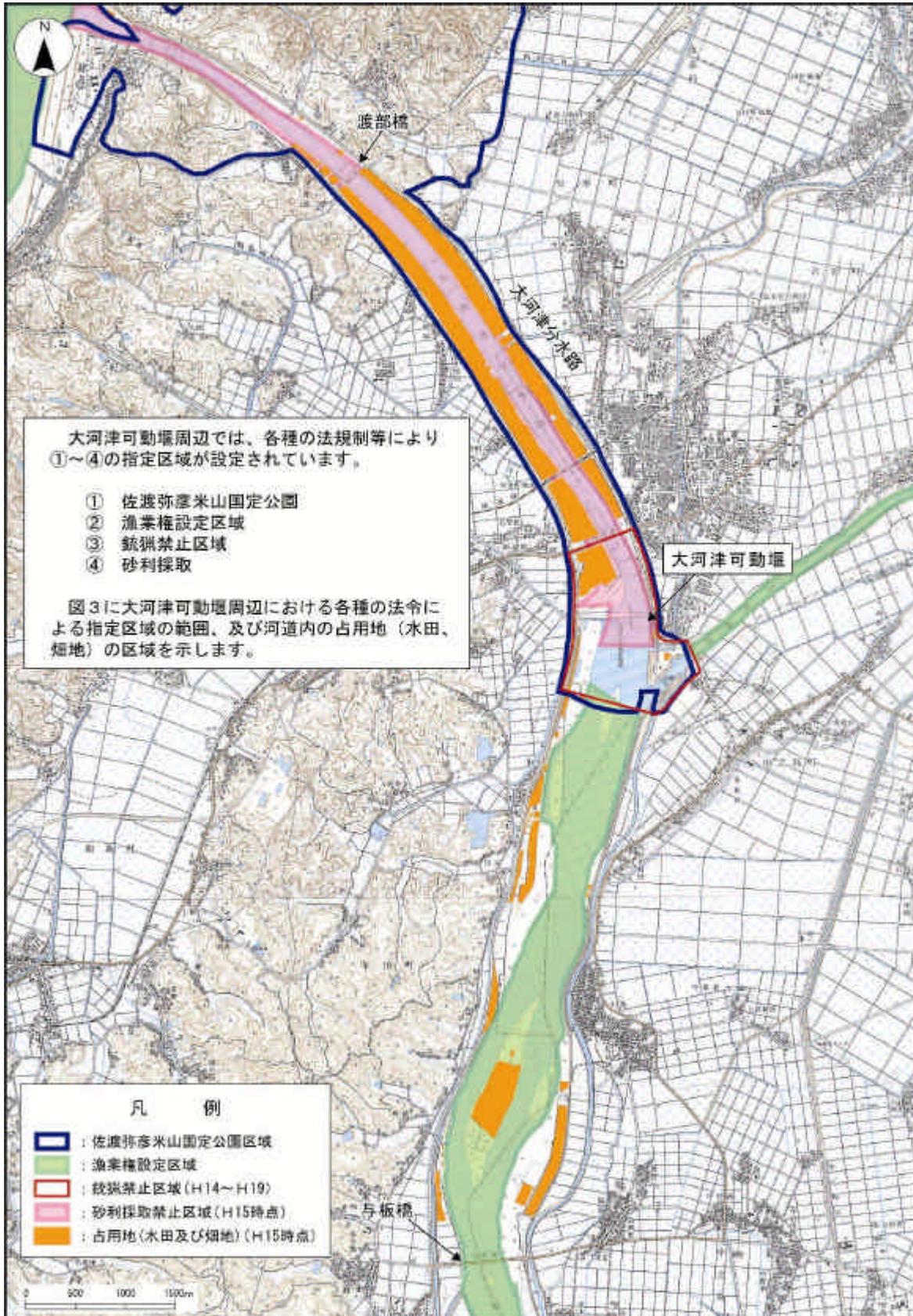
・大河津可動堰上流側では、昭和 49 年から現在まで、砂利採取が行われています。

・平成 8 年から洗堰の改築工事が始まり、信濃川本川との合流点の形状が現在の形になりました。



(2) 環境の保全に係る法規制の状況

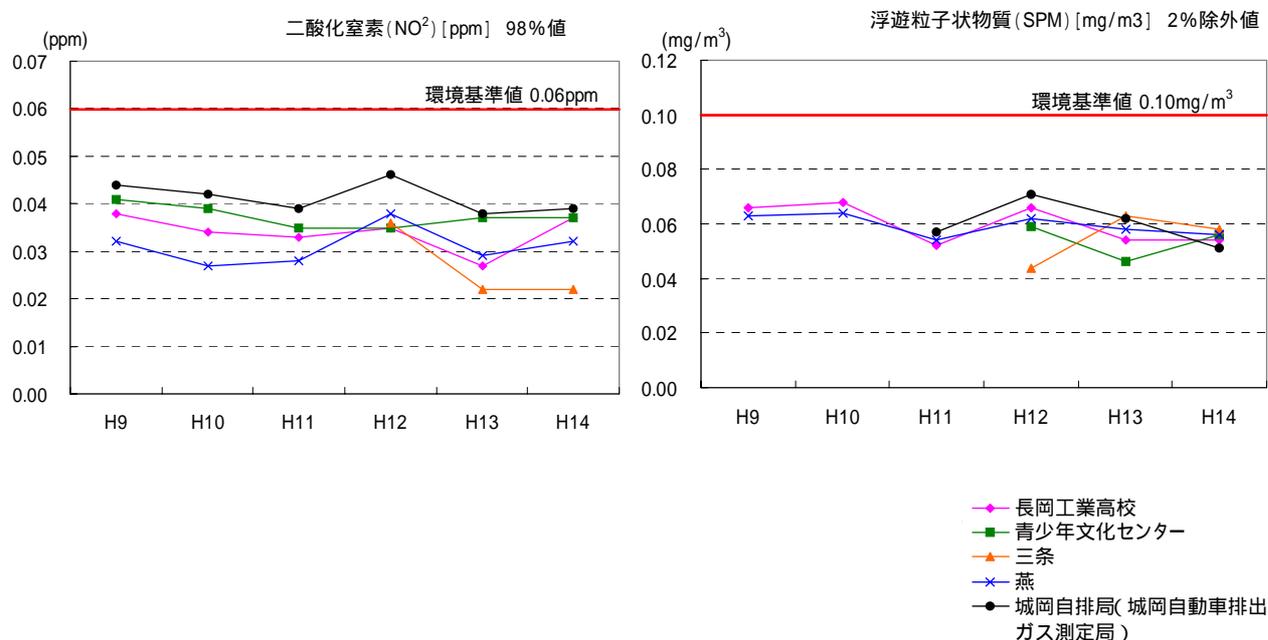
図3 各種指定区域



3-2 周辺地域の自然的状況

(1) 大気環境

大河津可動堰付近では、大気測定局がありませんが、最も近い燕測定局では、浮遊粒子状物質（SPM）、二酸化窒素（NO₂）における環境基準を満たしています。



二酸化窒素 98%値 経年変化

注) 環境基準値：1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。

長期的評価：1年間の測定を通じて得られた1日平均値のうち、低い方から数えて98%目に当たる値を環境基準と比較して行う。

資料：「平成14年版 日本の大気汚染状況」(大気汚染法令研究会監修 平成15年3月)
新潟県提供資料

浮遊粒子状物質 2%除外値 経年変化

注) 環境基準値：1時間値の1日平均値が0.10mg/m³以下であり、かつ、1時間値が0.20 mg/m³以下であること。

長期的評価：1年間の測定を通じて得られた1日平均値のうち、高い方から数えて2%の範囲にある測定値を除外した後の最高値を環境基準と比較して評価を行う。ただし、環境基準を超える日が2日以上連続した場合には非達成と評価する。

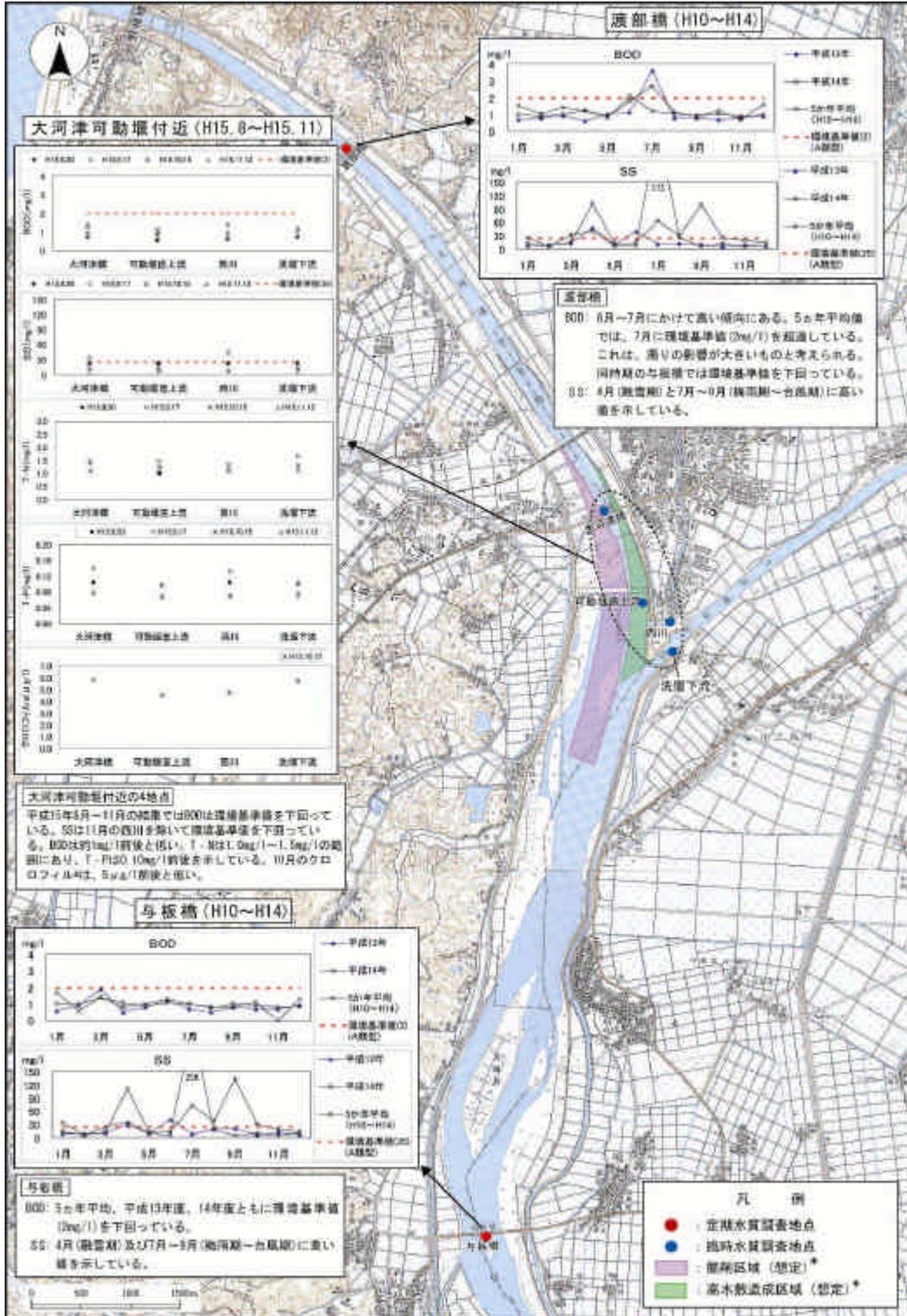
資料：「平成14年版 日本の大気汚染状況」(大気汚染法令研究会監修 平成15年3月)
新潟県提供資料

(2) 水環境

可動堰上流水域流入地点及び分水路のいずれも、BOD、DO、pH は河川水質の環境基準（A類型）を達成しています。

SS（浮遊物質量）は出水時期（融雪期、台風時等）に 100mg/l を超える高い値を示す場合があります。なお、水質の状況を図 4 に示します。

図 4 水質の状況



* 河道及び低水路掘削区域、高水敷造成区域の具体的な形状は現在検討中であり、変更の可能性があります。

(3) 動物・植物・生態系

大河津分水路、可動堰上流及びその周辺での植物、動物の生育・生息概況は下記の通りです。

植物のヨシ・オギ群落は、可動堰周辺で最も広い面積（調査範囲内の14.5%）を有する自然植生で、特に可動堰上流左岸、与板橋下流右岸にはまとまった群落が存在しています。また、このヨシ群落はチュウヒなどのヨシ群落に依存する生き物の重要な生息場所となっています。なお、現存植生図を図5に示します。

哺乳類はキツネ、タヌキなどが生息しています。また、鳥類では猛禽類やサギ類の利用がみられます。冬季にはコハクチョウやカモ類の利用が見られます。

魚類は、ウケクチウグイなども確認されています。大河津可動堰及び分水路内の工作物では、魚道が整備されており、サケの遡上が確認されています。洗堰の魚道では、サケ、アユ、ウグイなど多くの魚類の遡上が確認されています。

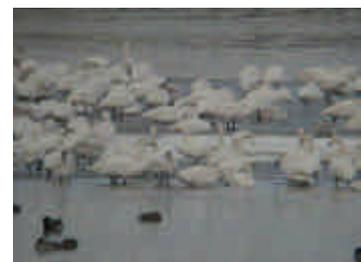
生態系の上位種としての猛禽類(ミサゴ、チュウヒ等)の生息が確認されています。特にミサゴは分水路河口部から大河津可動堰上流まで広く、生息場として利用しています。



ヨシ・オギ群落



チュウヒ



コハクチョウの群れ



ウケクチウグイ

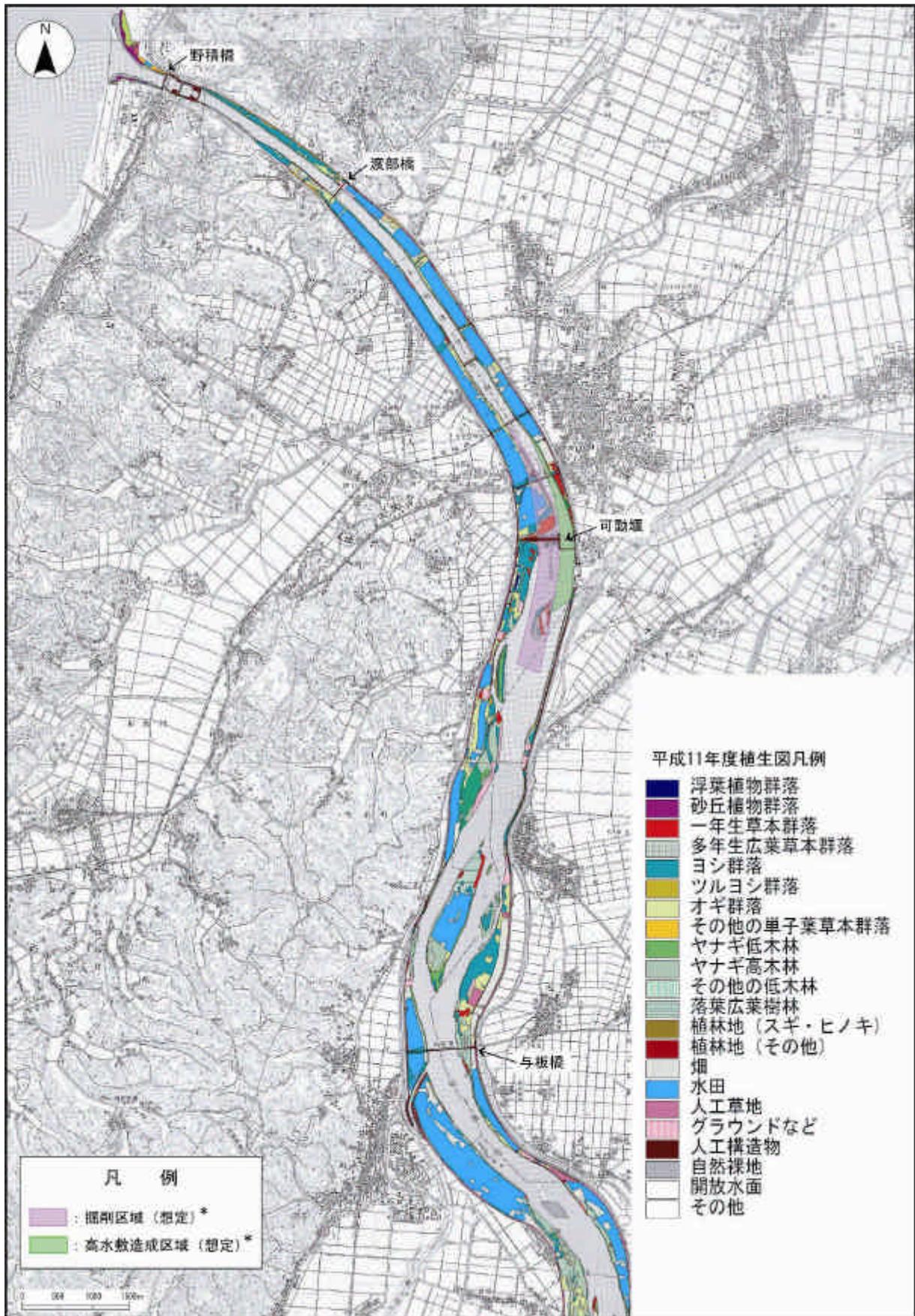


サケ



マガモの群れ

図5 現存植生図



*河道及び低水路掘削区域、高水敷造成区域の具体的な形状は現在検討中であり、変更の可能性あります。

(4) 景観・人と自然との触れ合い活動の場

「新潟の景勝 100 選」に「分水公園の桜と大河津分水可動堰」、「国上山と五合庵」が選定されており、国上山は良寛ゆかりの地です。

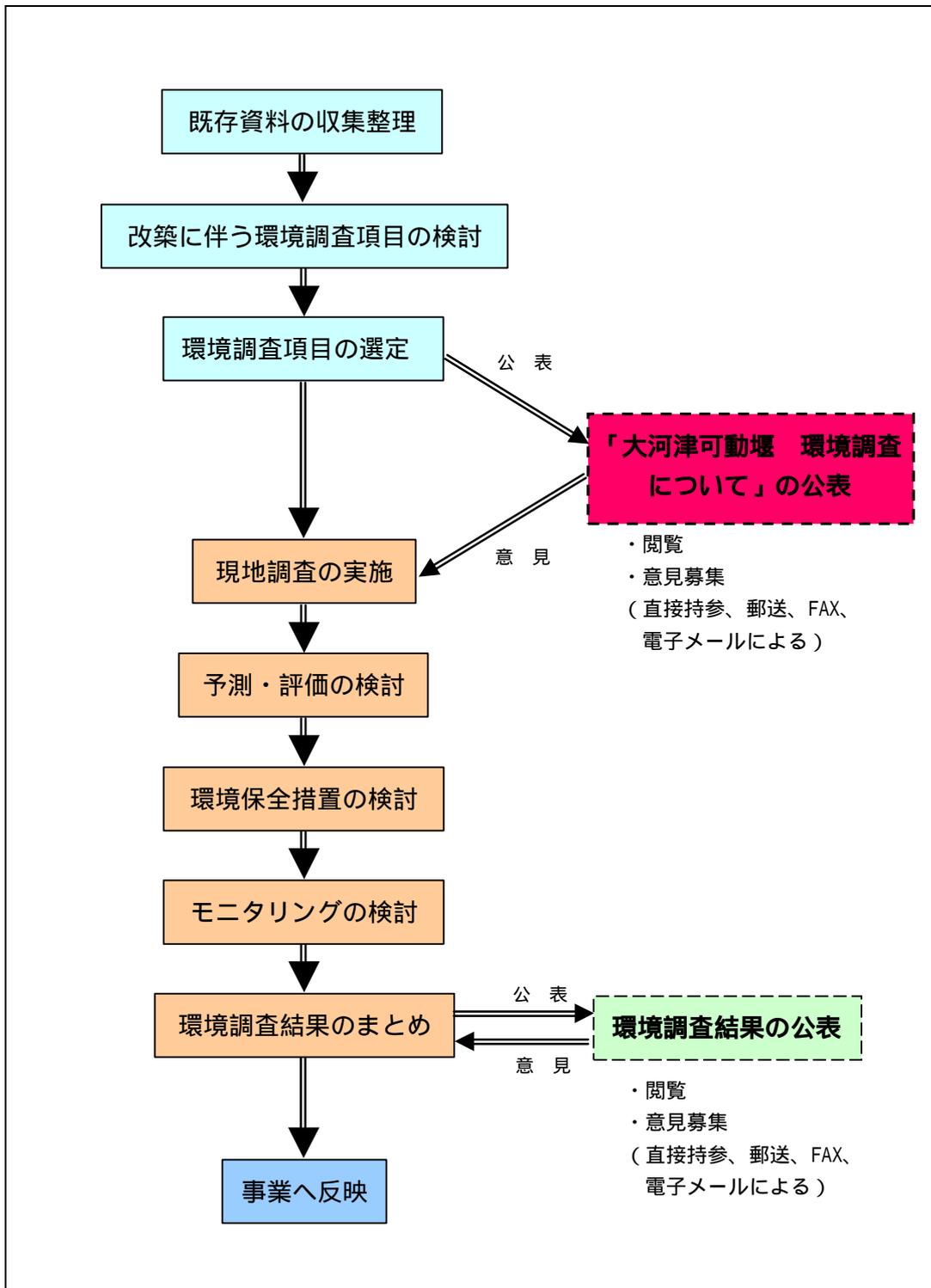
また、「新潟県環境プラン」により身近な緑に「大河津分水と桜並木」、身近な水辺に「大河津分水」が選定されています。



大河津分水と桜並木

4. 環境調査実施の流れ

本調査は下記のフローを進めることとしています。また、調査の実施段階、並びに調査がまとまった段階で、内容を公表し、みなさまのご意見を伺う機会を設けます。



環境調査のフロー